

〔5〕平成5年(1993年)
(第2期郵便物認可)

2月16日(火)

市民タイムス

サンディエゴより

—中嶋 嶺雄—

リレーコラム

私はこのところほとんど毎年、ときには年に何回かアメリカを訪れてはいたけれど、それは大抵、学会や国際会議への出席であったり、講演旅行であったりしたので、いずれも短期の滞在であった。それだけに今回のように、こちらに住んで、こちらの社会に登録し、こちらの大学で教えて給与を貰う身になって眺めていると、当然のことながら、これまでには見えなかったアメリカ社会がいろいろと見えてくる。

やはり何といっても

印象深いのは、今日のアメリカ社会の混迷である。失業、ホームレス(家無し)、麻薬、犯罪、人種問題、エイズ、それに最近では結核の流行までが深刻化し、国家的規模の問題としては、いずれも世界最大の財政赤字、国際収支赤字、国際債務を抱え込んでいて、アメリカ社会の病巣の根深さに今さらながら啞然とする。

事で再三躓いていたけれど、同時に軍隊にホモ・セクシアル(同性愛)を許容しようとして思うようにならず、にもかかわらずそれを推進しようとするクリントン大統領の姿をテレビで見ている、この大事な時期にアメリカは一体何をやっているのか、といったたまれな



リフォルニアは、一九八〇年代初頭以来、アメリカの再建を担う牽引車のように期待されたものである。航空機を始めとする巨大テクノロジー、コンピューターや半導体のハイテク産業、そして何よりもサン・ベルト地帯としての明るい気候風

カリフォルニアの凋落

土がアメリカの未来を切り開くかのように語られた。そのカリフォルニアが現在失業率が一〇数%にも達し、昨年のロサンゼルス人種暴動の深刻な後遺症も癒え切らずに、アメリカの再建にとっての足枷にさえなっている。カリフォルニアの凋落は、脱冷戦下における軍需産業

の不振と産軍複合体の衰退に起因するといわれ、ねばなるまいが、冷戦の終焉とソ連の崩壊は、戦後一貫してソ連と張り合ってきたアメリカの正統性の根拠をも掘り崩してしまったのだといえよう。栄光から傷心へと転じたブッシュ前大統領の後ろ

かに健全であるかが歴然とする。

このようなことを考えながら、今この原稿を書いている私の研究室からも、太平洋がよく見える。海の方々が日本なのだと思うとやはり懐かしいけれど、もとよりそこには日本以外にも、台湾、韓国、香港、シンガポールのNIEs(新興工業地域)があり、また中国大陆も存在する。つまり二一世紀に向けて依然として経済的活力を保持しつつ、いる東アジアの世界がそこにあるのであって、そのことによって今世界は救われている、ともいえるのではなからうか。

(カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院客員教授 松本市出身)